

# 図書館だより

第 6 号

昭和 53 年 11 月 25 日

愛媛大学附属図書館

## 目 次

○農学部分館を想う……………1	○統 計……………9
○医学部分館の発足にあたって……………2	○お知らせ……………10
○アメリカの大学図書館見聞録……………3	○人事異動……………10
○あちらの図書館案内……………6	○そ の 他……………10

## 農学部分館を想う

農学部長 船 田 周

早いもので、農学部の前身である県立松山農科大学が、戦後の所謂新制大学の一つとして発足してから、30年の歳月が経った。私自身は創設2年目に赴任してきたので、大学開設のときの空気には直接触れてはいないが、当時の話を聞くと、その御苦労は並大抵のものではなかったようである。今でもそうだが、大学を開設するからには、多くの条件が基準に満ちていなければならない。教官陣容、施設・設備、図書等々、大学における教育研究の実を挙げることができる為の、いわば最低基準のようなものがあって、それを満たしていない場合には開設が認められない。当時、戦後の混乱期であったことを思えば、この基準を満たすことが大変な作業であったことは想像に難くない。私も赴任以来、先輩の諸先生から、種々の苦労話を伺ったが、図書を充実することについても、未だ松山に確な書店もなかった時代でもあり、当時流行の「かつぎ屋」よろしく、満員の列車で上京し、神田、本郷の書店街を歩き廻り、これらと思う本を買い漁り、その本をリュックサックに詰めて松山へ持ち帰ったというようなお話し

伺った。途中で闇屋に間違えられたなどという悲喜劇も実際にあったとのことである。大学として備えていなければならない図書が、必ずしも数だけ多ければよいというものではないかもしれないが、最低の数の確保が当面の急務であった当時としては止むを得ないことであつたらう。幸い、このような諸先輩の御苦労が実って、無事設置審議会の審査もパスして、松山農科大学は、附属図書館を設置して発足することができた。その図書館が、その後の大学の国立移管に伴って、愛媛大学附属図書館農学部分館となり、10年前には、建物も更新され、農学或いは農業に関連した図書に関して、かなりの内容をもった分館として今日に至っている。更めて30年の歳月の重みを感じるとともに、これからの充実に学部としても十分な力を加えなければならないと思う次第である。農学という学問が、実験、実証を主体とした応用科学であることも原因の一つかとも思われるが、どうも実験設備や施設に投ずる予算に比べて、図書充実にかかる予算が少ないようなのは気にかかることで、もとより予算総額の増加が極めて微々とし

ている昨今、困難なことではあるが、文献抜きの研究や教育がありえないことを考えれば、もう少し図書充実のために予算を投じる必要があるので

はないかと反省しているこの頃である。

(農学部教授・農業環境工学)

## 医学部分館の発足にあたって

医学部分館長 小林 譲

秋の和らいだ日差しに包まれた重信キャンパスの周囲を眺めると、石鎚山から西へ美しく屏風のように延びた皿ヶ嶺を背景に、研究棟と附属病院とを主軸として、実験動物棟、R I 棟、少し南へ離れてエネルギーセンター、職員宿舎、看護婦宿舎などが整備され、更にそれらの周囲には樹々や芝生が育ち、運動場では野球やテニスを楽しんでいるのが見える。また、学生も6学年が全部揃い明年3月には第1回の卒業生を送るところにまでなった。この間にあって、待望久しかった図書館は本年3月に完成したが、10月には訓令の改正によって、正式に愛媛大学附属図書館医学部分館として発足した。更にこれと時を合わせて、同じく本年10月に第49回日本医学図書館協会総会が岩手医大で開催されたが、その際、本学医学部分館は準会員として入会が承認され、ここに名実ともに公に認知された組織を持つ図書館となった。新設の図書館では、どうしてもこちらから他へ願うことの方が多と思うが、相互扶助の精神にのっとり健やかな発展を期して行きたいものである。

図書館に課せられた使命のうち、日に日に増大して行く文献情報を、利用者の求めに応じて、いかに速く、いかに正確に、そしていかに能率的に集めるか、ということは最も重要である。ことに昨今のような情報化時代にあっては、この問題に対して、どこの図書館でも、最早、単独では十分応ずることは困難になったため、医学図書館協会に加入している図書館が協力して、一つは国立医学図書館設置の要望、もう一つは情報処理組織の整備による相互扶助を中心とした方向に進んでいる。

情報組織の整備の焦点となっているのは、JOIS (JICST On-line Information System) 端末機の導入である。関東、東海、関西地区を中心として、昭和52年度末には、わずか1年半の間に21館が導入済みで、更にその他の地区でも計画してい

る図書館が多い。JOIS については、すでに御存知の方もおられると思うが、昭和51年9月から、日本科学技術情報センター (JICST) が、オンライン情報検索システムによる情報の提供サービスを開始した。実用的なオンライン検索システムとしてはわが国で初めてである。たとえば、ある一つの病気について過去4年間の文献を申し込むと、直ちに文献の課題名、雑誌名 (巻、頁、年)、著者名がタイプされて出てくる。JOIS が利用できるデータベースは、JICST 理工学文献、CAC 化学文献、MEDLARS 医学文献などのファイルである。この装置については、医学部分館でも積極的に検討して行きたい。

次に、特定の文献の内容を早急に入手したい時に利用しうる情報伝達の新しい手段として、ファクシミリシステムという方法が開発されている。このシステムは電話回線によって文献を伝送する装置で、解像力は、文字や図表はきれいに写るが、写真はいま一步というところである。1件当りの経費は電話料によるので、東京などのように都内で相互に利用できる所が多い地区では価格も安く非常に便利であるが、本学のような所では割高となる。このシステムは中国・四国地区の医学図書館と共同で検討すべき問題と思われる。

新しい図書館作りの方向としては、“利用しやすい図書館”を目標として、職員一同は日夜努力している。新しく購入した図書や新着の雑誌を単にリストを作成して書庫に収めるといった古典的方法では図書館は物置に過ぎない。医学部分館では、第一歩として、すでに約1カ月前から、図書館の1階と2階の掲示板に加えて、研究棟1階西側の掲示板にも、新着雑誌のリストの日報を出している。更に図書館2階には、これら新着雑誌用の書架を用意した。新規購入図書についても、月報を出したり、学生用図書コーナーを設けるなどできるだけ利用しやすいようにしたいと思っている。

昼食時に福利会館や職員食堂へ行きがけに日報を見たり、食堂からの帰りに図書館へ寄って新着の図書や雑誌に目を通すような習慣を身につければ、長い間には随分益するところがあると思う。また、雨の日など、図書館へ行くのが億劫な時はせめて研究棟1階の掲示板の日報を見て、図書館

へ行くかやめるか決心するのも一つの利用法である。広く学内の人達の利用を希望している。

今後の運営については、新しく開かれた図書館として、更に利用しやすい図書館に育てて行きたいものである。

(医学部教授・第1内科)

## アメリカの大学図書館見聞録

岩 崎 一 男

アメリカにおける大学図書館の事情については、本学農学部佐々木助教授が、すでに本誌3号で詳しく紹介しているのですが、本稿では、カリフォルニア大学デビス校に滞在している間に写した写真を主として、思いつくままに筆を進めてみたいと思います。

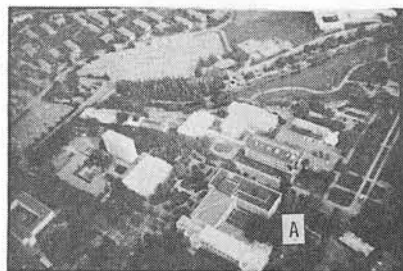
カリフォルニア大学は1868年にオークランドに開校し、現在では本部のあるバークレイを中心に9つのキャンパスが州内に点在している、いわゆるたこ足大学である。そのうちの1つであるデビス校は、最初農学部の附属農場として出発し、1922年にバークレイにあった農学部が移転した後、それを核として獣医、文、理、工、法、医学部が次々と新設されて現在に至っている。筆者の滞在中は医学部の大きな建物が、広大な敷地の内に建設中であったが、大学の所有している敷地はまだ半くらい荒地として残っており、野兎やリスが跳ねまわっているのには驚かされ、また、うらやましく思ったものである。

このような広大なキャンパスで、大学院生を含めた学生約20,000人、教職員約5,000人という大所帯が学び、研究をしているので、各種の設備はよく整えられている。なかでも、図書館は、農学、生物学を中心とした自然科学の図書に重点を置いている中央図書館をはじめとして、理工学系、法学系、医学系および農業経済学系の5図書館がキャンパス内に分散している。蔵書数は約124万冊、定期刊行物の購入は政府刊行物を含めて30,500種、その他、地図45,000種、マイクロコピー110万種、希覓本16,000巻などの特別コレクションがある。政府あるいは州政府刊行物についてはカリフォルニア州の集積センターに指定されており、さらに、理工学系図書館には、原子力、航空、宇宙工学関係の情報が、未発表のものまですべて収

集されている。

写真1の中で最大の建物(A)が中央図書館で、地上4階、地下1階からなり、蔵書の大部分は2~4階に収められている。一部の貴重なコレクションを除いて、ほとんど開架式となっている。

玄関(写真2)からロビーに入ると、正面に124万冊の蔵書のカードボックスが並んでいる(写真3)。新学期の初めには何時もこのロビーにベテランの事務員(B)が机を出して(写真3)、新入生に館内の案内をしている。書庫への出入口はロビーの左手にあり、入口、出口



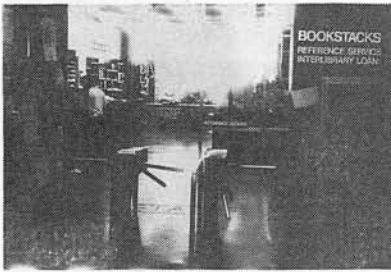
1. 中央図書館全景 (A)



2. 中央図書館正面玄関

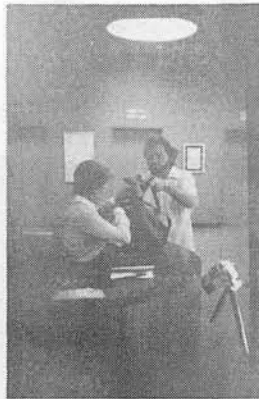


3. ロビーおよびカードボックス  
B: 案内係



4. 書庫入口、突当りは文献調査係

はそれぞれ一方通行になっていて回転棒で人数を確認するようになっている(写真4)。とくに出口の方には常時



5. 書庫出口での所持品チェック

係員が1人いて、出る人の持物を検査し(写真5)、蔵書の無断持出しを厳重にチェックしている。

閲覧は原則としてセルフサービスシステムを取っているので、当然の事ながら、開架書架(写真6)には、分類番号に従って1番の狂いもなく、本が整然と並べてある。利用者はその分類に従って簡単

に本を探し出して読むのであるが、帰る時にはそのまま机の上に放っておくか、または返納用の棚

6. 開架書架  
C: 使用済図書返却棚

(C)まで返しておくだけで、決してもとあった場所に自分で返すことはしない。最初これを見た時、「アメリカの学生は何と後始末が悪いのだろう」と思ったのであるが、よく見ると書架の横に「使用済の本は、もとの場所へ自



7. 書架横の閲覧場所

分で返してはならない」と書いてあった。使用済の本は、訓練を受けた学生アルバイトが、1日に何回か台車で集めてまわり、もとの書架に並べるシステムになっているもので、本の並び順に狂いのない筈である。

管理部以外、各階の主要な場所はほとんど書架で占められており、閲覧場所は主として書架の周囲の窓際に設けられている(写真7)が、その他書庫の僅かな空間も出来るだけ利用しており、書架の間を歩いていると、思わぬところに机があって、そこで本を読んでいる人にぶつかり、びっくりする。

製本された学術雑誌は必ず2冊揃えてあり、その内の1冊は館外持出禁止となっており、利用者

に不便のないようにしてある。未製本あるいは新刊雑誌は、新刊雑誌室においてあり(写真8, 9)、もちろん館外持出禁止である。

本の館外貸出はカードに必要事項を書き込んで提出し、チェックを受けるのであるが、返却する場合は非常に簡単で、カウンターにある返却用の穴(D)の中へボンと放り込んでおくだけである(写真10)。閉館時であれば玄関のドアにある返却口から投げ込んでおくだけである。



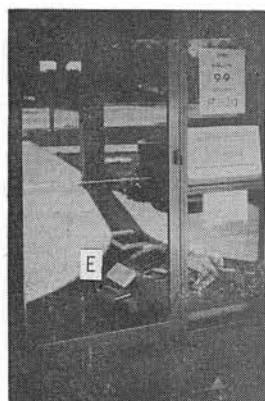
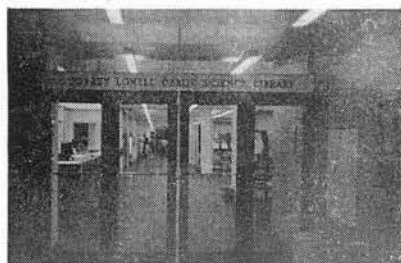
8. 新刊雑誌室

9. 新刊雑誌室  
日本の学術雑誌もみえる10. 図書貸出係  
D: 図書返却用投入口

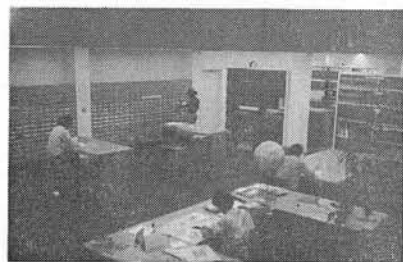
日曜日のコミュニティ図書館(写真11)の入口に、



11. ヨーロー郡図書館

12. ヨーロー郡図書館玄関  
E: 返却された図書

13. ハーバート大学理科系図書館入口



14. カードボックスおよび案内係

ドアの返却口から投げ入れられた本(E)が見えるが(写真12), 大学図書館も同じである。責任の所在について厳しい国柄にしては、少々ざさんな気もするし、本の傷みも激しいのではないかと心配になるが、利用者達は案外平気なようである。

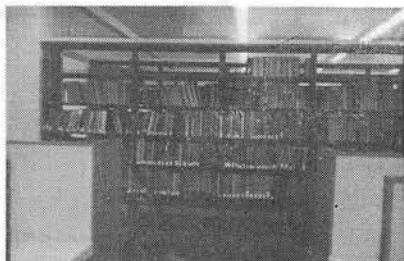
ハーバート大学で兩宿りに入ったところが偶然に自然科学系図書館(写真13)だったのであつかましくあちこち写真を写して歩いた。デビス校に比べると蔵書数も少なく(写真14, 15, 16), 規模も小さかったが、明るくしかも落ち着いた雰囲気勉強できるように配慮されていた(写真17)。ここ

で面白いと思ったのはビデオテープで講義を再生して勉強できるようになっていたことである(写真18)。こうなると、教える側も手を抜いた講義をするわけにいかず、学生にとっては反復して学習できるので、完全に理解することができるという利点がある。

以上、2年前の薄れた記憶を思い出しながら書き並べてみたが、いずれの大学においても、あらゆる点で利用者本位の配慮が為されており、必要なところには惜しみなく金が注ぎ込まれているのを見て、為政者の税金の使い方に着しい差のあることを思い知らされたものである。



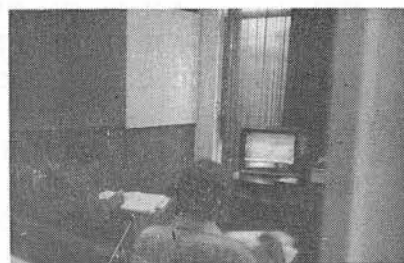
15. 新刊雑誌閲覧室



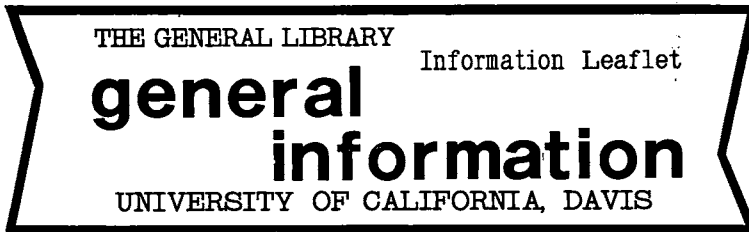
16. 開架書架



17. 図書閲覧場所

18. ビデオ室  
(農学部助教授・園芸学)

# あちらの 図書館案内



園芸学科の岩崎助教授より土産に頂戴した標記のリーフレットを、分館の館内研修の教材にとり上げてみた。恥かしながら大いに参考になった。見聞皆無の連中だからである。乞われるまま“館だより6号”に寄せてみることにした。まさに“**What Do I Do Now?**”とあるリーフレットの標語に勇気づけられた結果と言う他はない。草々不備。

## 農学部分館図書係

### 一般図書案内 カルフォルニア大学

どうぞ図書館においで下さい。このパンフレットは、あなたの図書館の蔵書の種類やサービス業務、そして有益でよりよい研究をされるにあたっての手続き等についての基礎的事項を述べてあります。

#### <開館時間>

本館の通常開館時間は下記の通りです。

月曜日～木曜日	: A.M. 8:00～P.M. 0:00
金曜日	: A.M. 8:00～P.M. 11:00
土曜日	: A.M. 10:00～P.M. 6:00
日曜日	: A.M. 11:00～P.M. 0:00

分館並びに本館の2,3の部局では上記と異なるゆえ、それらの開館時間については、本館の案内係あるいは分館等にお尋ね下さい。

#### <図書カード>

あなたが登録済みの学生でしたら、学生証が図書カードに相当します。

部、局の職員であった場合は、貸出係へ図書利用票を請求して下さい。

#### <蔵書内容>

本学図書館は、約百万冊以上を蔵書しております。自然科学図書館及び衛生学図書館でも相

当数蔵書しておりますが、そのほとんどは本館にそろっています。また農業経済向けの小規模の図書館や法律学校向けの大きな自治図書館があります。

本館の蔵書の内訳は、社会科学、人文学、農学、生物科学、物理学、地理学、技術系統、数学、化学、天文学などが自然科学図書に納められ、医学部、獣医学部に関するものは衛生学図書に納められています。

#### <もっと深く調査したい場合>

##### 1) 図書館内巡り

建て物を一巡し、そこに見えてくるのが何であり、どのように利用するかを、手持ちのポータブルカセットプレーヤーが順を追って案内してくれます。ほぼ45分くらいかかります。このポータブルプレーヤー並びにカセットは貸出係に申し出て下さい。

##### 2) 課程を取るにあたり

履習科目ではありませんが、“Library Survival”と称される小さな課程が年4回、1回に6時間ほど設けられます。

詳しくは、案内係にお尋ね下さい。

“English 48”は、図書館調査並びに図書目録の入門と称される3単位の課程もまた開講しています。図書館は、それ自体クラスの研究室として利用されており、各時期に時間割りと課程番号を確認して下さい。

##### 3) 独習

逐次刊行物についてのIndexとAbstractsについては15分ほどのビデオテープで説明しています。テープとビデオカセットプレーヤーは読書室の書籍サービス係に申し出ますと利用できます。

### <セルフサービス>

当図書館はセルフサービス体制を採用しており、あなたは直接書架へ行って書籍あるいは雑誌をお選び下さい。なお、説明が必要であれば第一フロアの参考係に申し出て下さい。喜んでお手伝い致します。

### 〔図書の見付け方〕

本館内の莫大な図書カードには、本館及び分館等における図書並びに逐次刊行物が含まれています。

(図書カード目録)は、二つに大別されています。つまり著者並びにタイトル別、あるいは題目別となっています。

**著者・タイトル:** 著者あるいは本のタイトルを知っている場合は、アルファベット順になっている著者—タイトルファイルの中から見付けて下さい。

**アブストラクトカタログ:** このアブストラクトカタログを利用する際の問題点は、その書籍の内容を表わす key words (重要索引語句)を決めることです。"見出し"と呼んでいるこの key word リストは、題目カタログのそばに保管されており、正しい key word ないしは正しい題目の見出しを引くのに利用できるようになっております。有効かつ、迅速にこのカードを利用するのに、貸出係、あるいは参考係で確認して下さい。

### <疑問点>

1) 貸出し中の場合は

目的の本が貸し出し中の場合、色分けされた貸し出し伝票が、カードカタログ中に貸し出し番号を示して納めてあります。その本が返却され次第、あなたにお知らせいたします。

2) 借りるときは

目的の本がみつかったら、"貸し出し中"と書いた透明なプラスチック製のさやをその上にかぶせて1階の閲覧室内図書保存係まで申し出て下さい。

### <図書の検索>

カードカタログに納められている本のほとんどは、文字と番号より記された図書番号を持っています。カードカタログには分館あるいは本館所有かを示すスタンプ(ローケーションマーク)を押してあります。

1) 本館内図書を捜すにあたっては、請求番号

をもれなく書き写して第一フロアのエレベーターロビーに行ってください。

2) エレベーター間にある階下案内を見て、あなたの必要な本が何階にあるか確かめなさい。例えばあなたの請求番号が {DG 261 F94} でしたら最初の文字のDを捜しなさい。各階の案内にはCからGまでを示しており、いま分類したのは、4階の一角にあります。

3) 階段あるいはエレベーターを利用して、その階の案内カードをもとに必要な本を捜して下さい。

### <書架の配列について>

当図書館で採用している図書番号と文字は、多くの他の学術図書館もそうであるように、米国議会図書館(Library of Congress)で採用している方法によるものです。

つまり A~G	第四フロア
H~T	第三フロア
P~Z	第二フロア

となっています。

### <必要な本が見つからないとき>

あなたの捜している本が、本来あるべき所がないとき、IBMカードに記入のうえ、貸出係にお渡し下さい。目的の本が、学内にあることが確認された場合、職員は返却をさい促致します。また確認できない場合、書庫を捜します。いずれの場合にせよ利用できるようになった時点で郵便でお知らせします。

### <逐次刊行物の見付け方>

当図書館では数千の一般雑誌、学術雑誌、新聞の逐次刊行物を置いています。これらの表題は本館のカードカタログにリストアップしています。カードカタログ並びに逐次刊行物リストは、各雑誌がどこに置かれ、その請求番号が何番であるかを記しています。なお、刊行物はつねに請求番号順に並べられており、最新号は書架に、古いのは製本されて並んでいます。

### <Collection>

1) 予約図書

当大学職員の要望により取り寄せられた書籍あるいは文献等は、その複写が学部閲覧室に設けられている"予約図書"として集められています。

2) 白書等

合衆国政府、州政府等の公務出版物は、時として最も優れた情報を備えております。

### ＜マイクロコピー＞

貴重な図書及び古新聞から科学論文まで、種々の図書がマイクロコピーに納められています。政府公報部門のマイクロコピー室の参考係でその使用法をたずねてください。

### ＜気楽な読み物集＞

第二フロアでは、最新号の平易な読み物および写真集が娯楽用に置いてあります。

### ＜特別集書＞

大学公文書、珍しい書籍、Higgin の農業工学集書並びに他のいくつかの珍しい貴重な全集が、本館第四フロアの特別集書部門に納められています。これらは、いずれも貴重でいたみやすいので、部局内においてのみ利用されています。

### ＜他の集収物とその配置＞

アフリカ人—アメリカ黒人集書  
……第四フロア書架

アジア—アメリカ集書……第三 //

アジア言語コレクション…第二 //

図書目録センター……………第一 //

Chicano コレクション

カリキュラム・コレクション…第三 //

地図コレクション……………第二 //

婦人コレクション、他

以上正確な位置は、案内版、図書館内マップあるいは参考係でお尋ね下さい。

### 〔図書サービス〕

#### 1) コピーサービス

図書の複写サービスは、複写可能な種々のものを受け入れており、月曜から金曜まで8時から12時と1時から4時半まで行なっています。最新刊行物室に隣接する第二フロアにおいてあります。また各フロアにはコイン複写機も置いてあります。必要な場合、1枚0.5セントであなたがノートをとる時間を節約できます。

#### 2) 館内貸出

職員、研究員、大学院生には、必要な図書が当図書館にない場合には、他の図書館から取り寄せ、館内で貸出しております。館内貸出業務は本館第一フロアの参照部内におかれています。

#### 3) 図書の紛失と発見

貸出係で尋ねてください。その一件は、週3回、守衛の方へ移されます。

#### 4) 意見投入箱

当図書館の蔵書並びにサービスの向上になるような御意見、あるいは運営上の疑問点などありましたら、各階のエレベーターロビー及びメインカード・カタログコーナーのそばに備えてある箱へ紙に書いて投入して下さい。

#### 5) タイピング室

第三フロアの小さな一室には自由に利用できるタイプライターを備えてあります。リーフレット版のお知らせを見て、あるいは参考係で正確な位置をたずねてください。

### 〔規則〕

### ＜チェックと検査＞

上の階を利用される方はすべて、第1フロアのチェックアウト・ステーションで図書、週刊誌等の確認を求められるでしょうし、また手持ちのカバンや袋の検査も受けるでしょう。このようにして図書館の所有物をすべて揃えておくことが、借りに来る方に対してその請求に応じて正確に、有効に貸出しできる保証となるのです。

### ＜書籍並びに定期刊行物の貸出期間＞

通常の貸出期間は書籍で2週間、限定した定期刊行物で1週間となっています。特定の刊行物については、図書館でのみ利用して下さい。また最新号のジャーナル類は図書館内でのみ利用していただくようになっております。

### ＜書籍・雑誌の返却について＞

全ての図書館物は、チェックアウトを受けてはじめて返却が確認されます。分館図書並びに分館の所有する定期刊行物は、適正な分館へお返し下さい。なお、閉館後の返却については、返却すべき本を図書返却箱へ投入しておいても結構です。図書投入箱は第1コーナー及びA通りに設けております。

### ＜継続貸出について＞

図書物は、他の利用者からのリクエストがない場合継続して借りられます。継続して借りる場合の手続は、本人直接ないしは、本人の直接電話によって下さい。

### ＜飲食物について＞

清潔度を保つ理由から、館内への飲食物あるいは動物の持ち込みは禁じられています。

### ＜喫煙について＞

喫煙所は外側の閲覧場所に設けられております。その他休けい室、北口階段のそばの第二



ロアーラウンジなどにもございます。

＜書庫内閲覧室について＞

貸出係で尋ねて下さい。書庫内個室は大学院

生等に割り当てられています。もし予約されていない個室があったら、学部学生も利用できますので貸出係まで申し込んで下さい。

昭和 52 年度愛媛大学附属図書館統計表

蔵書冊数

区分	本館	医学部分館	農学部分館	計
和漢書	290,040冊	15,169冊	45,782冊	350,991冊
洋書	90,365	14,454	10,613	115,432
計	380,405	29,623	56,395	466,423

増加冊数

区分	本館	医学部分館	農学部分館	計
和漢書	19,958冊	3,688冊	1,836冊	25,482冊
洋書	5,162	3,540	525	9,227
計	25,120	7,228	2,361	34,709

雑誌種類数

区分	本館	医学部分館	農学部分館	計
和漢書	3,420冊	373冊	1,128冊	4,921冊
洋書	1,703	676	418	2,797
計	5,123	1,049	1,546	7,718

利用対象者数（現員） 52.5.1 現在

区分	本館	医学部分館	農学部分館	計
教官	330人	171人	96人	597人
学生	4,752	294	565	5,611
計	5,082	465	661	6,208

入館者数（本館）

開架室	268,288人	475,391人	一日最高	6,000人
一般閲覧室	207,103人		一日平均	1,600人

利用冊数・人数

本館	医学部分館	農学部分館	計
153,766冊	11,076冊	10,090冊	174,932冊
107,479人	6,007人	5,380人	118,866人

館外貸出冊数・人数

本館	医学部分館	農学部分館	計
63,189冊	10,894冊	7,658冊	81,741冊
30,092人	5,900人	3,986人	39,868人

開館日数

本館	医学部分館	農学部分館	計
299日	294日	296日	889日

学外文献複写依頼件数

区分	依頼件数	複写件数	複写不能件数	支出国費	区分私費
教官	1,101	1,203	88	966	237
学生	190				
計	1,291	1,203	88	966	237

医学部から別途依頼件数 1,942

学外文献複写受付件数

受付件数	複写不能件数	複写件数	国費	私費
510	52	458	380	78

参考調査件数

区分	本館	医学部分館	農学部分館	計
文献調査	4,895	2,310	719	7,924
事項調査	569	140	21	730
利用指導	1,405	250	786	1,841
計	6,869	2,700	926	10,495

### お知らせ

#### 本館開館時間の延長並びに日曜日・祝日の開館について

かねてから強い要望のありました、上記開館時間の延長等について、実施諸条件の解決と館員の努力によって、本年9月11日から下記のとおり実施しております。

長い間の皆さんの希望が実現いたしましたことで、利用される方々に一層の励みが見つくものと期待しております。

どうか一人でも多くの方に利用していただけるよう本号で重ねてご案内いたします。

#### 記

平日	9時	から	21時まで
土曜日	9時	から	21時まで
日曜日・祝日	9時30分	から	17時まで

#### 人事異動

本年10月1日付をもって医学部に分館が新設され、初代の分館長に小林譲教授（内科第一）が就任されました。

農学部分館では11月1日付をもって徳増 智分館長が辞任され、後任に荒牧利武教授（農業機械学）が就任されました。

館員一同、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

[Redacted text block]

以前と同様よろしく

#### 愛媛大学記念文庫について

昭和53年4月～11月の間に寄贈いただいた著作図書は下記のとおりです。

#### 愛媛文学の史的研究

- 青葉図書 1977 和田 茂樹
- 函数解析 数学全書 6
- 森北出版 1974 前田周一郎
- 雨月物語構想論 教育出版 1977 勝倉 寿一
- 愛媛の祭りと民族 雄山閣 1978 守屋 毅

#### 児童心理学概論、新版

- 高文堂 1978 玉川 公代
- 石井南放作品集〔南放〕
- 明星印刷 1978 石井 進
- 南放随想、絵と文 松山印刷 1978 石井 進
- 弁証法と唯物論 丸三書店 1978 小林 登

#### 学生希望図書について

昭和53年5月～10月の間に購入した希望図書は下記のとおりです。

- マイクロ・コンピュータのプログラミング
- オズボーン マイテック社
- 不確実性の時代
- ガルブレイス ブリタニカ
- 結晶学概論
- ブラッグ 岩波書店
- 古典力学
- Goldstein 吉岡書店
- 法曹を志す人々へ
- 向江 璋悦 法学書院
- JISハンドブック工具 1978
- 日本規格協会 編 所
- 熱輻射理論
- Planck, Max 東海大学
- 講座心理療法（全8巻）
- 上里 他 福村出版
- 知覚と身体の現象学
- 湯浅 慎一 太陽出版
- 詩 学
- サガノブユキ 詩学社
- 空中線系および電波伝搬 上, 下
- 谷村 功 近代科学社
- 岩波ホールカセット講座平曲 1-4
- 館山 他 岩波ホール
- 散乱の量子論
- 砂川 重信 岩波書店
- 家庭教育論
- 広中 平祐 講談社
- コケに魅せられて
- 井上 浩 玉川大学

#### 愛媛大学附属図書館報「図書館だより」

第6号 昭和53年11月25日発行  
 発行 愛媛大学附属図書館  
 松山市文京町3番  
 Tel 0899-24-7111

# 開架室の利用について

## 愛媛大学附属図書館

近年学生用開架図書（一般図書・参考図書）は、文部省配当予算の増額に伴い大幅な整備・拡充がなされております。

また、一方では入館者の激増（昨年度の開架室入室者数 268,288 人）とあいまってその利用も飛躍的に増大しております。

しかしながら、図書館の利用について不慣れ、または利用の方法をよく知らないためか、一部ではありますが誤って無断持ち出し（チェックを受けないで）をしたり、長期にわたって滞納する方が跡を絶ちません。

図書館に備え付けられている図書資料、特に開架室に備え付けの図書資料は、学生専用として、全学生諸君に利用していただくために備えられたものでありますから、上記のこともないよう充分注意していただくことを強く訴える次第です。

図書館では、諸君が図書館を利用するためにより便利な方法を検討しその実行に努めており、（学生専用開架図書の充実・夜間開館時間の延長日曜日・祝日の開館等）今後も利用方法に改善を加えていくよう考えております。

利用される諸君が良識ある態度で積極的に図書館を利用されることを強く要望いたします。

なお、チェックを受けないで持ち帰った図書・長期にわたって返し忘れていた図書がありましたときは早急に返納していただくようお願いします。

直接本人が来れないときは、友人に頼むとか何らかの方法で返納して下さい。